

日米韓に5月首脳会談構想 尹錫悦氏の3カ月が握る命運

編集委員 峯岸博

2022/3/11 0:00 | 日本経済新聞 電子版



10日未明、韓国大統領選に勝利し、党員らの前で話をする「国民の力」の尹錫悦氏（ソウル）＝共同

韓国の次期大統領に保守系野党「国民の力」の尹錫悦（ユン・ソクヨル）前検察総長が就任することが決まった。「文在寅（ムン・ジェイン）外交の最大の失敗」と専門家が口をそろえる日韓関係の立て直しは焦眉の急だ。政権交代を迎える2カ月後まで待ってられる余裕はいまの両国にない。

【関連記事】 [首相、韓国次期大統領と電話協議 関係改善へ協力](#)

尹政権での5年にわたる新たな日韓関係づくりは、今から5月末ごろまでのほぼ3カ月の取り組みの成否が命運を握りそうだ。

韓国政府関係者によると、尹次期大統領は政権移行期間中に韓国政府と調整したうえで相星孝一駐韓日本大使と会い自身の対日方針を示す。日本政府と相互の特使派遣も検討する。日本側はそれらを踏まえ、5月10日にソウルで開く大統領就任式に派遣する要人の人選と新大統領との会談内容を詰めることになる。

大統領就任式が最初の関門に

「重要なのは5月10日の大統領就任式だ」と日韓の政府高官は異口同音に語る。

韓国内には、岸田文雄首相の出席を期待する声強い。「今後の対日政策づくりで国内を説得しやすくなる」（韓国政府関係者）との判断がある。過去にも2008年2月の李明博（イ・ミョンバク）大統領の就任式に合わせて当時の福田康夫首相が訪韓し、日韓首脳会談を開いた例がある。だが日本政府筋は「徴用工問題で争っている相手国に首相が出向くのは考えられない」と否定的だ。政権交代を機に韓国重視の姿勢を示す必要はあるとして、同国に豊富な人脈をもつ林芳正外相の出席が有力視されている。

朝鮮半島情勢に影響する主な日程	
3月9日	韓国大統領選・投開票日
4月ごろ	米韓合同軍事演習
4月15日	故金日成・北朝鮮主席の生誕110年
5月10日	韓国大統領就任式
5月ごろ	Quad首脳会談、バイデン米大統領が来日
7月	参院選

就任式での日韓会談は単なる儀式にとどまらない重みをもつ。

13年2月の朴槿恵（パク・クネ）大統領の就任式は今でも語り草になっている。ソウルで会談した安倍政権の麻生太郎副総理の歴史認識をめぐる発言に朴氏が不快感を示し、信頼関係づくりが「第一歩からこじれた」（韓国メディア）と韓国側が受け止めたためだ。



2013年2月、韓国大統領就任式で演説する当時の朴槿恵大統領（ソウル）

クアッド活用した尹氏来日案

日米韓3カ国連携の強化に向けたヤマ場になりそうなのが、バイデン米大統領の来日だ。同氏は5月ごろの東京開催で調整している日米とオーストラリア、インド4カ国による協力の枠組み「Quad（クアッド）」の首脳会談に参加することが決まっている。

その機会に韓国大統領に就任したばかりの尹氏を日本に招き、日米韓、日韓、米韓の首脳会談を同時開催する構想が関係国間で浮上している。3カ国のトップが一堂に会して結束をアピールし中国、北朝鮮、ロシアへの抑止力強化につなげる狙いだ。尹氏はまずは米ワシントンでの米韓首脳会談の開催を米側に打診する可能性があり、その返答にも左右される。クアッド後にバイデン氏が韓国を回る場合、岸田首相も同行してソウルで日米韓首脳会談を開催するアイデアもあるが、これには日本側が消極姿勢を示すとみられる。

次回のクアッドが注目されるのは、開催に先立つ4月に北東アジアで緊張が高まる恐れがあるからだ。カレンダーをみると、4月ごろに朝鮮半島で米韓合同軍事演習と北朝鮮での故金日成主席の生誕110年記念日が並ぶ。米韓演習に対してはかねて北朝鮮が猛反発し、過去には弾道ミサイル発射などの大型挑発で対抗した経緯がある。



20年10月10日に北朝鮮・平壤で開催した軍事パレードに登場したICBMとみられる兵器。同日の朝鮮中央テレビが放映した=共同

金主席生誕記念日を北朝鮮は「太陽節」と呼び国内最大のイベントに位置づけており、今年は特に「盛大に祝う」と決めた。近年封印してきた大陸間弾道ミサイル（ICBM）発射を再開する可能性もささやかれ、日米韓が警戒を強めている。

中国・ロシアへの傾斜深める北朝鮮

将来、米国が北朝鮮と開戦するようなことがあれば、在日米軍基地は後方支援基地になる。最近の日米韓の会合で米政府が日韓にクギを刺す場面が目立つのは同盟国同士のいさかいによって3カ国連携にほころびが生まれ、米兵らの安全を脅かしかねないと危ぶんでいるからにほかならない。

北朝鮮が中国、ロシアと結束を強めている最近の状況は気がかりだ。2月12日に米ハワイで開いた日米韓外相会談は5年ぶりに共同声明を発表し、台湾やウクライナ情勢などの対応に協力分野を広げた。これも2正面、3正面对立に追い込まれる危険に備える米国の思惑がみえる。



外相会談に臨む（写真右から）林外相、ブリンケン米国務長官、韓国の鄭義溶外相（2月12日、米ハワイ）＝外務省提供

政権交代にらんだ地ならしも

7月の参院選が近づくと、岸田政権は韓国との交渉に動きにくくなる。日韓両政府間では、政権交代をにらんだ地ならしも始まっている。その1つが、日本が19年7月に踏み切った対韓輸出管理の厳格化の問題だ。日本の措置に反発した韓国政府は同年9月に「政治的動機に基づく日本の措置は差別的であり不当だ」と世界貿易機関（WTO）に提訴したが、現在は両政府間の話し合いによって手続きが止まっている。

当面、最大の懸念は、韓国の裁判所に差し押さえられた日本企業の資産が売却されて現金化する事態だ。商標権や特許権などが第三者の手に渡るようなことになれば日本側は対抗措置を取らざるを得ない。「外交上、信頼できない国」として国際社会における韓国政府との協力・連携を拒む手段に出る可能性がある。

政権交代後の韓国政府も国内の原告・支援団体と日本政府による板挟みの厳しい交渉を強いられる。韓国国会の議席も野党に転じる革新政党が約6割を占める。日米韓や日韓首脳会談の早期開催論が浮上する背景には「日韓の懸案は官僚の作業の積み上げではもはや解決できない」（韓国政府関係者）と見ているためだ。

中国の習近平（シー・ジンピン）国家主席は2月上旬、訪中したロシアのプーチン大統領と会談し米欧と対峙する姿勢を打ち出した。それからほどなくロシア軍はウクライナ侵攻に踏み切った。岸田首相は「力による現状変更を認めるとアジア、国際社会全体にも誤ったメッセ

ージを発する」と訴える。中国、北朝鮮、ロシアに囲まれた日韓ともに米国を交えた連携を強める必要性に迫られている。

【関連記事】

- ・ [日韓関係「過去より未来」 韓国大統領に尹錫悦氏](#)
- ・ [韓国新政権、米国重視へ回帰 対中口「曖昧戦略」修正へ](#)
- ・ [中国・習氏、韓国次期大統領に祝電 米日と接近を懸念](#)
- ・ [国際情勢が迫る韓国の分断修復](#)
- ・ [韓国大統領に尹錫悦氏 物価高、株安など難題多く](#)

峯岸博（みねぎし・ひろし）

1992年日本経済新聞社入社。政治部を中心に首相官邸、自民党、外務省、旧大蔵省などを取材。2004～07年ソウル駐在。15～18年3月までソウル支局長。2回の日朝首脳会談を平壤で取材した。現在、編集委員兼論説委員。著書に「韓国の憂鬱」、「日韓の断層」（19年5月）。

混迷する日韓関係や朝鮮半島情勢を分析、展望するニュースレター「韓国Watch」を隔週で配信しています。登録はこちら。

https://regist.nikkei.com/ds/setup/briefing.do?me=B002&n_cid=BREFT033

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.